

「千葉市中央区 80・50を考える会」

令和7年度中間報告会 活動報告

令和7年11月5日

加藤 聡子

8050問題とは

80代の高齢の親と、50代の働いていない子どもが
外になかなか助けを求められないまま過ごし、
親が介護状態になったり、亡くなったりした後に、
子どもが生活できなくなる問題

このような状況の方を中央区から一人でも減らしたい！

→中央区80・50問題を考える会を立ち上げました

目的

2021年度～2023年度

8050問題を抱えるご家庭を早期発見し、
地域で支える**仕組みづくり**を行う



当事者の方を対象に**社会参加へ向けた啓発活動**を行う

※社会参加＝就労、外へ出るという狭義の意味ではない

事業概要

8050問題を抱えるご家庭に対して、
支援を受けることで、社会参加できるということを知って頂き、
社会参加へ一歩踏み出していけるよう支援する

- 1) 社会参加へ一歩踏み出すための事例集づくり（WEB媒体含む）
- 2) 啓発活動（講演会、勉強会等）

事業内容

- 1) 毎月会議を行い、事例集づくりについて話し合う
- 2) 講演会・勉強会
- 3) 当事者団体を対象にした地域勉強会

活動実績

第1回	4月	18人	今年度の活動内容、映画会の検討
第2回	5月	13人	映画会、事例集の検討
第3回	6月	23人	映画会、事例集の検討
第4回	7月	18人	映画会・事例集の検討
第5回	8月	17人	映画会・事例集・勉強会の検討
第6回	9月	19人	映画会準備
10月11日	123人	映画会【どうすればよかったか】&座談会	
第7回	10月	19人	映画会振り返り

主催:千葉市中央区80・50を考える会(中央区地域活性化事業)
共催:千葉市/千葉県社会福祉士会

8050問題を考える

映画上映会 & 座談会

よ
か
っ
た
か
?
ど
う
す
れ
ば

12:30~

受付開始

13:00~14:50

映画上映

『どうすればよかったか?』

14:50~15:05

休憩

15:05~16:15

座談会

『今、地域でなにができるか』

16:20~16:50

個別相談会

映画鑑賞料金

1,000円

高校生以下、及び障害者手帳
を持参の方は無料



言いたくない 家族のこと

親戚がよほど嫌いな娘に娘が夫と離婚の意思を伝えた
父と母は互いに責めあがり、娘を助けてあげた

(C) 2024動画工房どうしま

2025年10月11日(土)

12:30~17:00

会場/千葉市ハーモニープラザ

3F ハーモニーホール

(千葉市中央区千葉寺町1208-2)



●事前参加申込方法●

二次元バーコード①映画鑑賞から希望・②座談会、個別相談会のみ
のどちらか、または裏面の申込書をご記入の上、FAXにてお願いし
ます。【事前〆切】10月3日(金)



- ・映画鑑賞希望の方は①のバーコードより申してください。
- ・座席に限りがある為、なるべく事前の予約をお願い致します。(座席は先着順にご案内します。指定はできません)
- ・予約なく当日来場いただいた方は、空きがある場合のみのご案内となりますのでご了承ください。
- ・座談会、個別相談会のみ参加の方は②のバーコードより申してください。入場料はかかりません。

映画上映会 & 座談会(10月11日)

- 1)映画上映
『どうすればよかったか?』
- 2)座談会
『今、地域でなにができるか』
- 3)個別相談会

映画会報告



◆参加人数 123人



◆個別相談

中央区障害者基幹相談支援センター4人

事例集（簡易版）

※配布資料参照

千葉市8050事例集 （簡易版）

この事例集は、あまり医療や福祉のことを知らない方でもわかるように、簡易版として作成しました

より多くの事例や支援の詳細を知りたいという方は、以下の二次元コードよりアクセスして頂けるとご覧になることができます



千葉市中央区地域活性化事業
千葉市中央区80・50を考える会

10年以上ひきこもっていた 知的障害のある女性が 通所を開始したケース

事例) 1

プロフィール

50代の知的障害の女性Aさん。
家族は80代の父と母。
10年前に通っていた仕事を辞めて
しまってから、家にいてどこへも行
かない生活でした。
母と父が親亡き後のことについて、
悩んでいました。

①母からの相談

母がケアマネジャーに相談。

ケアマネジャーから障害者基幹相
談支援センターに連絡が入りまし
た。

②障害者基幹相談支援センターの 職員訪問

ご本人は会話はできなかったが、穏やかで、
訪問を快く受けてくれました。

・知的障害はあるが、訪問のテーブルと一緒に
座ってくれて、にこにこしている様子から、人
との関わりは好きのように感じました

③人と関わることの練習

障害者基幹相談支援センター職員と一緒に散歩に行ってみることに。

散歩の途中で、たまたま就労継続支援B型事業所の前を通ったので、

「今度、ここの見学に来てみないか」と誘ってみると、OKして下さいました。

※就労継続支援B型事業所とは、一般の企業での就労が
難しい障害者が、サポートを受けながら働く場所です

④就労継続支援B型事業所の見学

事業所の見学をしたところ、「いいところだね」
との言葉があったので、通所の手続きをしてい
くこととなりました。

Aさんのその後

当初は通所を渋る様子もありましたが、初めはお昼ご飯を
食べるだけにし、その後、30分の作業から始め、半日、1日
と延ばし、今は週1回通っています。今後、通所に慣れていっ
たら、グループホームなど考えていこうと思います。

事例集（詳細版）

※配布資料参照

千葉市中央区8050事例集

千葉市中央区 80・50 を考える会

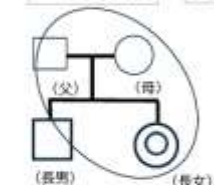
令和7年10月

【事例1】10年以上ひきこもっていた知的障害の女性が、過所を開始したケース

キーワード	50の支援、知的障害
対応センター	障害者基幹相談支援センター
関係者	居宅介護支援事業所、障害者基幹相談支援センター
相談者	両親のケアマネジャー（居宅介護支援専門員）より
世帯構成	父（80代）母（80代）長女（50代）／別世帯に長男
経済状況	父の年金、長女の障害年金

居宅介護支援事業所（ケアマネジャー） → 障害者基幹相談支援センター → 相談支援専門員・就労継続支援B型事業所（計画相談）

ケアマネジャーが発見 → ひきこもりの長女に会う → 福祉サービスを受けながら現在は親元で生活



発見した時の状況

両親が今後のことを考えて、ケアマネジャーに相談したがきつかけ、過去に職場でうまくいかなかったことで、外へ出るきつかけがないまま今日に至っていた。

【それぞれの特徴】

- 長女：療育手帳（B1）。過去に福祉サービスを使ったことがあるが、やめて以来、ひきこもっている。
- 両親：どちらも介護が必要な状況ではないが、デイサービスに通所中。長女がいるために、必ずどちらかは家におり、長時間の利用はできていない。
- 長男：結婚し別所帯を構えている。

■ケアマネジャーが担当している80から82歳を受けける

【発見】

ケアマネジャーが、両親から長女の親亡き後のことを心配していると相談を受けた。長女には幼少時から保険をかけており、自分たちが亡き後のお金の心配はない。しかし、長女の世話をどうしたらいいかを心配している。長女は高校卒業後、美容の専門学校へ行ったが、卒業後は飲食店で就労、体調不良により退職し、就労継続支援B型事業所（※）に行ったが、そこで嫌な思いをしてから、人と会わなくなり、外へも出なくなってしまう。20年が経過した。

■障害者基幹相談支援センターの支援へ

【つなぎ】ケアマネジャー → 障害者基幹相談支援センター

ケアマネジャーから障害者基幹相談支援センターへケースの相談をし、後日、一緒に自宅訪問をした。

当事者の方の声

- ・丁寧に考えてくれて涙が出た。
- ・事例を読んで連携してくれるんだ。紹介してもらうのも、たらいまわしじゃなくて意図があるんだと思えて、心強く感じた。
- ・先生のコラムがよかった。
- ・支援が点だったのが線でわかりやすかった。
- ・こんな感じだった子供に見せてもいいかも、と思った。

付帯条件に対する取り組みについて

1. 前回事業との違いを明確化するとともに、今回の事業目的に主眼をおいた事業内容とすること
2. 当事者目線に立った視点で、事業に取り組むこと

- ・映画会へ 親の会17名、当事者の方3名が参加
- ・親の会へ事例集を発送
- ・親の会の勉強会への参加依頼

後半の活動予定

1) 啓発活動（講演会、勉強会等）

2) 会内での勉強会（2月）

「本人を支える 家族も支える ～精神障害者家族まるごと支援の重要性～」

当事者（親の会）の方との企画について検討中

ご清聴ありがとうございました